

看護の仕事 新たな発想で

来月2日 道医療大で学術大会

当別



「看護福祉分野が発展するためには、自ら発想する・行動するという観
点が必要」と話す齋藤教授

【当別】町内金沢の道医療大当別キャンパスで九月二日、同大看護福祉学部学会の第三回学術大会が開かれる。テーマは「発想する、行動する看護学・福祉学」。同大OBによる実践報告を通して、病院や施設に勤めるだけでは、新たな看護職、福祉職のあり方を探る。

(細川智子)

同大の看護福祉学部は設立十四年目。看護と福祉が一体となった学部は国内で数カ所だけという、同大は看護福祉分野の発展に寄与するため、二〇〇四年から年一回、学術大会を開催している。

今大会の講演は、同学部臨床福祉学科の卒業生で、特定非営利活動法人(NPO法人)「当別町青少年活動センターゆうゆう24」所長の大原裕介さん(三七)が講師役。同センターは常勤スタッフを

数人雇用し、知的障害児の放課後「アイサービス」を行っている。講演ではセンターの実践報告から、行政や大学との連携、公的補助の活用などについて学ぶ。

大会長の齋藤いずみ同学部看護学科教授(四七)

母性看護学は「これまで看護、福祉職は病院や施設で雇われるのが一般的だった」と指摘。だが、最近は看護コンサルタン卜業や訪問看護ステーション経営など、起業する看護師が始めているとして、「今後は地域で求められる技術やサービスは何かを主体的に考え、行動する必要がある。今大会がそのきっかけになれば」と話す。

大原さんの講演は同九月五十分から二時間で、入場無料。

午後は齋藤教授や、横井寿之同学部臨床福祉学科教授のセミナーなどがある。午後の部の参加費は二千元。

問い合わせは同大学会事務局 ☎0133・23・1215へ。